「京都文教大学海外学術研究助成金」交付による海外出張報告書（１頁）

2015年12月21日提出

申 請 年 度	２０１５年度　（平成27年度）		
所 属 学 科	臨床心理学科	職・報告者氏名	准教授　平 尾　和 之
海外出張内容（種別に○）	目的：16th International Neuropsychoanalysis Congress への参加		・学　会（○） ・会　議
	訪問国・地域： オランダ・アムステルダム	助成額　270, 000円	・調　査 ・研修/セミナー
期　　間	2015年7月7日（火）　～　2015年7月14日（火）		7泊8日
上記出張期間の研究・調査等活動経過	7月 7日・・・・・ 自宅（京都）→ 関西空港（大阪）発, アムステルダム着 7月 8日・・・・・ 現地視察・資料収集（ゴッホ美術館など） 7月 9日-11日・・ 16th International Neuropsychoanalysis Congress への参加 7月12日・・・・・ 現地視察・資料収集（国立美術館など） 7月13日・・・・・ アムステルダム発 7月14日・・・・・ 関西空港（大阪）→ 自宅（京都）着		
研究・調査発表等概要	世界各国の心理療法家と脳科学者が集まる学際的雰囲気を肌で感じながら参加した。 今年のメインテーマは「Plasticity and Repetition（可塑性と反復）」であり、このテーマを中心に、最新の脳科学と心理療法の知見に基づいて発表と議論が交わされた。脳科学においては、一昔前まで、一旦死滅した神経細胞は元に戻らないと考えられていた。ところが、近年の脳科学的知見からは、神経細胞も再生すること、すなわち可塑性があることが明らかになってきた。とくに神経の可塑性が認められるのが、私たちの記憶にかかわる海馬という領域である。心理療法においては、記憶、とくに感情にかかわる記憶を扱い、その過去の記憶をいま、そしてこれからどうしていくか、ということが治療的に重要になる。心理療法におけるセラピストとのかかわりの中で、クライエントの記憶が変容していくプロセスと、脳のレベルの（感情）記憶の再固定化プロセスを重ねることで、さまざまなアイデアが生まれる可能性を感じた。 日本からの発信として、私たちは「'It's nature itself'—plasticity and repetition in a post-stroke patient」というタイトルで発表を行った。この臨床事例研究では、前年度の発表に引き続いて、脳卒中により病態失認という神経心理学的症状を呈していた別の事例のイメージ表現を提示し、神経精神分析的な観点から検討した。脳卒中を被ったクライエントは、自らの足腰の弱さを嘆きつつ、記憶障害などの認知機能の低下には無関心であったが、バウムテストには彼の傷ついた自己像が表現されていた。クライエントは箱庭療法の中で「自然」を繰り返し表現したが、その表現は次第に生き生きとしたものになっていった。一方、最後のバウムテストや箱庭の中には枯れ木や切り株などの傷つきも表現されたが、倒れた木々を1本1本立て直していくプロセスからは、クライエントの心と脳において死と再生のプロセスが進んでいることが伺えた。このように、意識化や言語化が必ずしも十分でない脳損傷患者への心理療法において、バウムテストや箱庭などのイメージ療法は、患者の内界が表現される「窓」として機能する。加えて、クライエントの再生のプロセスを促進する力となる可能性がある。聴衆にもイメージの力は伝わったようで、ディスカッションにおいてもこの領域におけるイメージの役割について、新たな発展の可能性が感じられた。		

「京都文教大学海外学術研究助成金」交付による海外出張報告書（２頁）

研究・調査発表等々の成果の概要	□ 心理療法と脳科学のコラボレーションついての発表から、この学際領域における最新の知見を得た。 □ 各国の心理療法家や脳科学者との議論、交流の中から、新たなアイデア・コラボレーションの可能性が生まれてきた。 □ 我々の活動・発表については、共鳴してくれる臨床家・研究者もおり、帰国後も共同研究を進めている。 □ 今回の経験を、臨床実践レベルでの臨床心理学（臨床心理士）と精神医学（精神科医）の実りあるコラボレーションに結びつけていきたい。
研究・調査等の成果発表予定	**雑誌論文**：研究成果を論文化し、学術雑誌に投稿予定である。 **シンポジウム・公開講演会等の開催**：今回の学会参加を踏まえ、心身臨床学研究会（9/6 京都）、日本心理臨床学会・自主シンポジウム「ニューロサイコアナリシスへの招待」（9/19 神戸）、日本精神病理学会・シンポジウム「脳科学と精神病理」（10/10 名古屋）で発表を行った。 **授業時の活用**：本出張で得られた知見を、精神医学やゼミの授業で、大いに活用している。